高岡市立博物館　2000.6号

# 博物館だより

「東海道四谷怪談　戸板返し」

三代歌川豊国画
江戸時代後期

歌舞伎狂言。四世鶴屋南北作の世話物。文政8年(1825)初演。塩冶(えんや)浪人民谷伊右衛門が私欲に迷って妻お岩を憤死させ死骸を川に流したが、その亡霊に悩まされて自滅する。

人気の高い「戸板返し」の一場面で、殺害されて戸板に打ちつけられ、川へ流されたお岩と小仏小平(こぼとけこへい)が戸板の表裏に現れる。その後四谷怪談の主要人物が次々に登場する。

安城市歴史博物館蔵

# 高岡城址物語

## 1. 築城から廃城へ

高岡古城公園の歴史は、加賀二代藩主・前田利長が慶長14年（1609）富山城の炎上により、関野（高岡の旧地名）と呼ばれる自然の要害の地であった荒野に城を築いたことに始まる。縄張り（設計・配置）は当時加賀藩に身を寄せていた築城の名手でキリシタン大名でもあった高山右近が行い、利長は慶長14年9月13日入城した。

高岡城は、今日の市街地の東方に広がる沼地に囲まれた台地に築かれた。沼地に面した本丸の前後に二の丸と小竹藪を一直線に配し、内堀を挟んで鍛冶丸、明丸、三の丸を配し、全体的に郭を二列縦隊に並べることによって本丸を護ろうとした。この築城は、前記の事情から急を要し、加越能三国あげての突貫工事で、わずか半年の期間で建設されている。城郭の詳細を物語る史料が伝世されておらず、不明な点が多い。天守閣や隅櫓の痕跡はないが、利長の居館や幾つかの倉庫は建っていたようである。築城当時の遺跡としては、飲水用に掘られた井戸の一つが三の丸（民部丸ともよばれた）に保存されている。

高岡城の破却に関しても、詳細は不明であるが、利長没後慶長19年（1614）の翌年の元和元年（1615）に徳川幕府より「一国一城令」が出され廃城となっている。また、寛永14年（1637）に起きた島原の乱以降、幕府により石垣の取り壊し命令も下るが、加賀藩は、土塁や水濠をそのままに、高岡町奉行の管理下におき、明治になるまで特に手を加えられることもなく、自然美の豊かな城跡として400年近くの命脈を保ってきた。

## 2. 明治以降の城跡

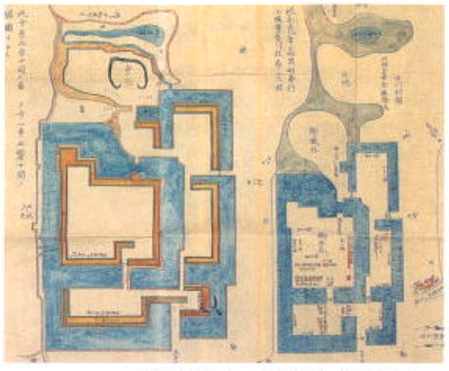
高岡城跡は「古御城（こらおしろ）」と呼び町民の誇りであったが、明治3年（1870）金沢藩は民間払い下げによる開墾の旨を布達して、それを受けて七尾県より入札の布達が出された。濠の埋め立ては禁止し、濠以外の樹木や土地を入札にかけられた。藤井能三はじめ多数の町の有志達が落札しているが、間もなく払下げの一時見合せの通達が出され、明治6年になり公園条例が公布されることになった。

そしてその翌年の7月、二上村から射水神社が城跡内に遷座され、これを好機として、当時第17大区区長の服部嘉十郎ら有志が中心となり、公園指定の請願書を新川県権令宛に提出した。この願書には、植栽や園路・架橋のほか、博物館・美術館・図書館・公会堂・体育館・児童遊園地等の建設計画が書かれ今日の公園設備の構想がすでに描かれていた。

## 3. 高岡公園の出発

明治8年（1875）7月4日、高岡城跡は正式に公園に認定され、そして翌月には、早くも内嶋ら12名が、公園利用の営業願を出し、水茶屋・客席等の許可を受けている。

同13年には鍛冶丸跡（現・博物館の場所）に郡役所が設置され、大正10年の郡制廃止まで存続した。また明治14年には、二の丸跡に高岡区裁判所と富山監獄高岡出張所が設置され、その周辺に代書屋や仕立屋のほか、数軒の民家が建ち並び、公園らしからぬ景観を呈していた。



高岡城之図　文政13年（1830）（部分）
金沢市立玉川図書館蔵

次いで、明治42年（1909）皇太子の行啓にあたり、大整備が行われた。市は、全国の主だった公園設計をしていた長崎県出身の東京都造園技師・長岡安平（1842～1925）に、高岡公園の設計を依頼し、園内の民家に立ち退きをさせ、その跡地に植栽を行い、紅葉橋（現・朝陽橋）を改築、二の丸近くに板塀を設置するなど、将来的な公園像の構築が行われた。なおこのほど、長岡安平による当時の公園設計図をはじめ、園内の石組み・滝・橋・御亭などのデザイン下図などが多数見つかり、当館で収蔵している。

## 4. 大正～昭和

その後、大正7年（1918）に本丸跡に前田利長卿遺徳碑が建立、続いて大正11年には摺鉢型の相撲場が開設され、大相撲はじめ多くの力士が来高した。また大正14年には二の丸に高岡図書館が建設された。

昭和期になると、同8年（1933）二の丸・椿山（現・高岡市護国神社地内）に招魂碑が建立され、本丸が大運動場として整備された。この大運動場では、市内小学校の連合運動会をはじめ、各種のスポーツ大会などが開催された。また、戦後の昭和26年（1951）には産業復興のため、他都市に先駆けて高岡産業博覧会が公園の全域に展開され、公会堂・美術館（現・博物館）が新築され、図書館は建替えられ、動物園も現在の体育館前で開園している。（現在地へ昭和35年移転）

その後、大運動場は、昭和22年（1947）に本丸球場として整備され、同35年（1960）には、相撲場がドーム型の市民体育館に生まれ変わり、さらに球場は同50年（1975）には芝生造成された緑の広場となり、同54年にはブロンズ彫刻の並ぶ芸術の森として整備されてきた。

この間、園内各所に、故郷の先人を顕彰する幾多の石碑や歌碑が建てられ、四季を通して市民の憩いの水濠公園として親しまれている。





### ◆『高岡銅工ニ答フル書』（草稿）林　忠正著
嘉永6年（1853）～明治39年（1906）

明治19年（1886）
縦 27.3cm　横 19.0cm
罫紙17枚綴

この資料は、高岡銅器の名工の一人、白崎善平が銅器輸出の不況を憂えて、明治19年（1886）パリに在住している林忠正に、教示を乞うたことに対して送られて来た罫紙17枚の文章である。それには単に高岡銅器だけでなく世界的視野から当時の日本の美術工芸の傾向及び海外輸出の現況を鋭く分析し、振興策を述べたもので、明治19年頃の忠正の貿易上の信念、美術工芸に対する鑑識眼の高さとともに忠正がわずかの間に世界的な美術商にのし上がった秘密の一端を知るのにふさわしい資料である。

### ◆蝋型鋳造額面「魁星（さきがけぼし）」　二代須賀松園作
明治31年（1898）～昭和54年（1979）

蝋型鋳造作家、二代松園の「龍」と並んで得意とした「魁」を題材としている。隆々と盛り上がる筋肉や、全身を纏う天衣は激しくひるがえり、躍動感あふれる優品である。

「魁」とは、「魁星」ともいい、北斗七星の第一星であり、「文章星」といって中国の文事を司る神様のことである。右手には筆、左手には墨壺を持っている。

昭和39年（1964）頃制作
縦 20.4cm　横 16.4cm

### ◆新収蔵品紹介

4月1日～平成12年1月31日現在

| 購入 | 分類 |
|---|---|
| 高岡彫刻塗鯛盆 | 産業 |
| 天神木像（本保兵吉作） | 産業 |
| 蝋型鋳造額面「魁星」（二代須賀松園作） | 産業 |
| 越中国射水郡全図 | 歴史 |
| 第5回内国勧業博覧会錦絵 | 歴史 |
| 善悪出世寿語ろく(4) | 民俗 |
| 引札「佐渡養順・金子恕謙」 | 歴史 |
| 引札「金物・鉄工商　畠山店」 | 歴史 |
| 東京勧業博覧会双六 | 産業 |
| 龍雲文緑釉耳付火鉢（今泉焼） | 産業 |
| 陶胎螺鈿塗杯洗（木村天紅作） | 産業 |
| 山水文箔絵勇助塗香盆 | 産業 |
| みみずく文錦絵胴張り文庫（彼谷芳水作） | 産業 |

| 寄贈 | 分類 | 寄贈者 |
|---|---|---|
| 陶製釜 | 民俗 | 五嶋孝一氏 |
| 和菓子仕上げ用匙（3点） | 産業 | 五嶋孝一氏 |
| 林忠正著「高岡銅工ニ答フル書」 | 歴史 | 長崎圭爾氏 |
| 鞴（ふいご） | 産業 | 可西泰三氏 |
| 銅吹職願書 | 産業 | 可西泰三氏 |
| 金吹工場詳算表・鉱物取揚表 | 産業 | 可西泰三氏 |
| 荒銅仕切証（2点） | 産業 | 可西泰三氏 |
| 梅花文三段提重 | 民俗 | 五嶋孝一氏 |
| 染付梅鶯文四段重 | 民俗 | 五嶋孝一氏 |
| なまこ火鉢、こね鉢（2点） | 民俗 | 五嶋孝一氏 |
| すり鉢、くけ台 | 民俗 | 五嶋孝一氏 |
| ホーロー皿（2点） | 民俗 | 五嶋孝一氏 |
| 花蝶文水注 | 民俗 | 五嶋孝一氏 |
| 柳行李 | 民俗 | 五嶋孝一氏 |
| 高岡市街鳥瞰図（吉田初三郎画） | 歴史 | 山井政樹氏 |
| パリ万国博覧会パンフレット | 歴史 | 長崎圭爾氏 |
| 花鳥文勇助塗茶棚 | 産業 | 島田友啓氏 |
| 高岡公園改良設計図（長岡安平設計） | 歴史 | 緑花対策課 |
| 高岡古城公園関係地図（109点） | 歴史 | 緑花対策課 |
| 伏木託児所の栞 | 歴史 | 堀田光子氏 |
| 伏木保育園創立60周年パンフレット | 歴史 | 堀田光子氏 |

| | | |
|---|---|---|
| 雲龍文彫刻塗角盆 | 産業 | 塩崎英太郎氏 |
| 瓜形彫刻塗盆 | 産業 | 塩崎英太郎氏 |
| 昭和天皇即位記念奉祝提灯 | 歴史 | 神保成伍氏 |
| 高岡産業博覧会記念灰皿 | 歴史 | 神保成伍氏 |
| 子供用足袋（3足） | 民俗 | 神保成伍氏 |
| 携帯カイロ「春日和」 | 民俗 | 神保成伍氏 |
| 豆炭あんか、ブリキ製湯たんぽ（2点） | 民俗 | 織田睦夫氏 |
| 電気足温器、ハクキンカイロ | 民俗 | 織田睦夫氏 |
| 陶製水差し、国民服（上下）2着 | 民俗 | 織田睦夫氏 |
| 国民服儀礼章「八紘一宇」 | 民俗 | 織田睦夫氏 |
| パン焼き器、アイロン台、三徳（大小2点） | 民俗 | 織田睦夫氏 |
| 雪ぼうぼう、おろしがね、ゲートル（2足） | 民俗 | 織田睦夫氏 |
| 婦人雑誌「手軽で楽しい手芸と工作」 | 民俗 | 織田睦夫氏 |
| 婦人雑誌「和服裁縫大全集」 | 民俗 | 織田睦夫氏 |
| 家庭用紙芝居セット(5) | 民俗 | 織田睦夫氏 |
| 琵琶 | 民俗 | 織田睦夫氏 |
| わらじ（5足）、アルマイト弁当箱（2） | 民俗 | 邑本順亮氏 |
| 電熱器・ガス入電球 | 民俗 | 邑本順亮氏 |

**郷土の歴史資料などの情報を求めています。**

歴史資料や生活資料は、社会の変遷や興亡の足跡を理解する上での貴重な文化遺産です。当博物館では、古文書・生活資料などの収集保存を行い、展示に生かしたいと思っております。

### ◆平成11年度刊行図録

| | |
|---|---|
| 企画展「ふるさとの偉人」 | A4版 47P |
| 特別展「地獄と極楽」 | A4版 28P |

# 平成12年度 展示紹介

## ◆常設展「郷土の暮らしと文化」

4月1日(土)～平成13年3月31日(土)

高岡市は、近世期の開町以来、銅器・漆器をはじめとする伝統産業を生み出し、今日まで商工都市として発展してきました。特に明治期における高岡商家の商業活動は、全国的にみても特筆すべきものがあります。

このような郷土の特性を当館収蔵の高岡の歴史・民俗・産業資料約300点を展示し、常に開かれた市民学習の場として公開いたします。

## ◆収蔵品展「くらしの民具」

平成13年1月12日(金)～3月20日(火)

## ◆企画展「高岡史料展」

一期　高岡城址物語　4月5日（水）～5月21日（日）
二期　高峰譲吉　8月22日（火）～11月3日（金）

2000年とやま国体の開催にあわせ、新たに見つかった高岡公園設計図・測量図（明治期）などの展示をまじえ、高岡古城址が明治期の公園指定の後市民の憩いの広場として現在に至る物語を紹介します。

また、高峰譲吉博士顕彰会に新しく寄贈された資料等を中心に紹介します。

高岡公園改良設計図
当館蔵(長岡安平設計、明治44年)

◇高岡古城図・公園指定請願書・公園設計図・絵葉書・古文書・写真など
◇高峰譲吉関連書簡・遺愛品・古文書・資料写真

## ◆特別展「帰ってきた幽霊」

6月23日(金)～8月6日(日)

「幽霊」は死者の現れであり、もともと田の神・山の神として子孫を守るものでした。しかし、その後仏教の輪廻思想の流入の影響のほか、人の世の恨みつらみが重なり合わされることにより、江戸時代に伝えられる幽霊像が確立されました。

「幽霊」は、日本画家の円山応挙・松村呉春などが描いた幽霊図に始まり、能・歌舞伎などの芝居の世界で開花した江戸町人文化の一つです。

しかし今日では妖怪キャラクターと混じりあい、人々の心から忘れられつつあります。

本展では、富山県内及び近県の寺社に所蔵する幽霊図を中心に、芝居の世界を表現した色彩豊かな錦絵や版本・写真などを展示し、日本人の暮らしと共に息づいていた幽霊の世界を紹介します

幽霊図
光照寺蔵(氷見市)
(部分)

**ー休館日ー**

・月曜日
(国民の祝日にあたるときはその翌日)

・年末年始

平成12年2月1日　高岡市立博物館編集　〒933-0044　富山県高岡市古城1-5　TEL0766-20-1572　FAX0766-20-1570